

# しょうによししょうにんきゆうせき 證如上人旧跡

えんまんじ  
圓滿寺

(所在地) 玉川四丁目四

圓滿寺は極楽寺とともに「野田御坊」と称される。證如上人の御書は、大阪市指定文化財となっている。



【碑文 右灯籠 下部】

(正面) 證如上人御由緒

(右側面) 例年三月八日九日当村

廿一人討死

御書御披露

(左側面) 野田御坊圓滿寺

願主



(裏面) 安政之丙辰曆三月建之



【碑文 説明板 右上】

野田御書

〔御書〕

「今日のかっせんに廿一人うちしにのよし、いたはしさぜひにおよばず候、しかれども、しやう人の御方を申され たのもしく ありがたく候、うちしにのかたかたは、こくらくのわうしやうとけられ候はん事 うたかひなく候。いよいよ、ちそうたのみ入候。此よし、うちしにのあとへもつたへられたく候。あなかしこ。野田惣中へ」

〔大意〕

本日の合戦で二十一人が亡くなったことは、とてもとても悲しいことでございます。しかし、この私の味方をしていただきとてもありがたく思っております。亡くなった人々はまちがいなく極楽へ往生されるはずです。この二十一人が亡くなったことはいつまでも忘れることなく後の時代に伝えていって下さい。

【碑文 説明文 右半分】

野田村二十一人討死御由緒

本願寺第十世・證如上人御旧跡

居原山・圓滿寺について

圓滿寺は、天文三年（1534）十二月に『野田村惣道場』として創建されている。

この時代は、戦国時代の真つ只中であり、第八世蓮如上人によって一挙に教線を拡大した本願寺も各地の守護大名らと勢力拡大を目指して戦っていた。

天文二年（1533）八月九日、京郁山科の本願寺を敵勢に焼き討ちされた證如上人は石山本願寺（現在の大阪城の池）に移られ、野田村におみえになった。

この時、細川晴元の伏兵が待ち伏せし不意に襲いかかり戦闘となった。

一向宗（浄土真宗）に帰依していた野田村の門徒らは庄屋の藤氏を中心として戦い二十一人が生涯橋（現在の下福島中学校裏付近）で討死した。證如上人は小舟で泉州へと落ち延びられ、

この悲報に接し野田村の門徒らへ一通の感状をしたためられた。

これが有名な『野田御書』である。なお、この合戦で野田村のほとんどの家屋敷は焼失し、

往古以来著名な野田藤も焼失したといわれている。

【碑文 説明文 左半分】

その後、江戸時代中期の宝暦四年（1754）に圓滿寺という寺号を拝受し、阿弥陀仏木像（現在の御本尊）も拝受している。

なお、山門は寛政七年（1795）に上棟され当寺の建造物では最古のものである。

本堂は万延元年（1860）に再建されて現在に至っている。欄間の微細な彫刻や樺材や檜材をふんだんに使用した

江戸時代後期の建築様式を今に伝える希少な建造物である。梵鐘には、当寺創建の由縁となった『野田御書』の御文を

そのまま彫り込んでいる。また、当寺に現存する五千点余の古文書は、江戸時代の地域史や寺院史を研究する上での貴重な史料として注目されている。

平成一五年に『野田御書』や阿弥陀仏画像をはじめ計四点が大阪市有形指定文化財に認定された。

『野田御書』は日本全国に十一通の写本が存在するほど著名なものであり【大阪市史】にも掲載されている。

毎年五月八日には、野田御書（野田村二十一人討死御消息）披露法要を開催し往時を偲び討死した二十一人門徒の功績を顕彰している。

【圓滿寺寺宝】

野田御書（證如上人筆 二十一人討死御消息）證如上人筆

阿弥陀仏画像（裏書 天文三年十二月 釈證如）

六字名号（南阿弥陀仏） 證如上人筆

阿弥陀如来画像（小幅）（裏書 釈證如）

（以上 大阪市有形指定文化財）

(図)

阿弥陀仏画像

これが居原山・圓滿寺のはじまりであり、当時は『摂津国下仲鳴野田村惣道場』と称していた。この時、證如上人より阿弥陀仏画像を拝受し御本尊として安置し、現在まで『野田御書』とともに寺宝として大切に保存している。